

## はじめに

はじめまして。M A M I Eです。柿本真美江と申しますが、長年ブログを書いていまして、読者の方々にも、自分自身でも、アルファベット大文字でM A M I Eと言うのがしっくりくるので、そう自己紹介させていただきます。

まずは、星の数ほどある書籍の中で本書を手にとってくださり、本当にありがとうございます。この世の中には偶然は存在せず、あなたが本書を選んでくださったことも必然で、奇跡的なご縁だと確信しています。こうして本書を通じて出会えたことに、あなたの世界に存在できたことに、心より感謝いたします。

私たちはすべてを選び、設定し、使命を持ち、経験するために地球に生まれてきています。

今は空前のスピリチュアルブームです。これが一昔前であれば、オカルト、怪しい、現実逃避など、世間的にマイナスなイメージや警戒心も強く、精神世界のメッセージや宇宙の真理を伝えることは、とても難しく勇気がいることだったと思います。

それがどうでしょう。今では多くの人が普通にスピリチュアルな用語を話し、誰もが「潜在意識」

の存在を意識することができています。これは宇宙的「流行」のようなもので、多くの人はこの流れに乗り、真理を探したり自分自身と向き合ったりと、目覚めの準備が始まっています。その時代を選び設定したということです。私もそんな流行にまんまと乗った口です（笑）。

本書は、そんなブームの真ただ中に書かれたものとして、10年前には必要だった、輪廻転生やカルマ、魂といった目に見えないものがあるかないかという議論や根拠をスキップし、引き寄せの法則のような宇宙の摂理や真我の存在を肯定することを前提として書かせていただくことを、本編に先駆けておくことわりしておきます。

そうは言っても、私は特にサイキック能力があるわけでも、宇宙科学や神話に精通しているわけでもありませんので、難しい精神論を語ったり、悟りを開くための啓発本を書いたりするつもりはありません。あくまでも一人の主婦であり、母である女性としての目線ですのでご安心くださいね。

2006年あたりから、長きにわたりブログを書き続けてきました。その中でたくさんのおピックにおいて、ライフスタイルや考え方、思いを日記のようにつぶやいて、発信を続けてきました。いつの間にか多くの方に読んでいただけるようになり、ブログを通じてたくさんのお会いがあり、また仕事をさせていただく機会もありました。長年の読者の方はご存じのように、短い期間に大変化がコロ

口起こるいわゆる波乱万丈な人生を送りながら、いろいろな思いや気づきを記してきました。特に2016年の秋分の日以降、私の中で大きな使命に対する目覚めがあり、「愛の度数を上げる」ということの大切さを、これまでの経験を経て気づき、実感し、「伝える」ことになりました。以降はメッセージ性の強い内容のブログが中心となり、今に至ります。

このたびご縁があつて、私のブログに目をとめていただいた出版社の編集の方からご依頼を頂き、本書を執筆する流れとなりました。

私のこれまでの人生においては、大きな気づきや成長のときに、必ず「恋愛」がきっかけとしてありました。

これを書いている現在、43歳（出版時には44歳予定）で、10歳、6歳、4歳の三姉妹を娘に持つシングルマザーです。この10年の間に未婚の母、子連れ結婚、二度の出産、離婚を経験し、渋谷に生まれ育った都会っ子が、生まれて初めて3人連れで田舎暮らしを始めて3年目になります。こうして書いてみると大忙しですね（笑）。

短期間の中で段階を経た「恋愛」を通して、右往左往しながらも「気づきと成長」を繰り返し、今の自分が愛そのものとして存在しています。

「気づき」というツールをもっとも得やすいのが「恋愛」という経験においてです。

なぜならそこには多くの感情があふれ、対象となるパートナー（鏡）が存在し、家庭や家族という社会的要素の創造が加わり、エゴの制御が極めて難しい状況が発生しています。それは魂が欲するさまざまな経験が豊富にできる状況です。同時に思考パターンや固定観念を含め、誰もが深い深いカルマを持ち合わせていて、そのカルマを解消するきっかけになるからです。私たちは経験し、カルマを解消し、魂の成長に喜び、自分の使命を果たしていきます。だからどうしてもその過程で「恋に落ちしてしまう」のです。恋の魔力であり魅力ですね。

でも落ちつばなしではなく、むしろ絶好の輝くチャンスに変えることができます。

私は自分の人生経験と気づきによつて得た、学び、成長、体感や感覚と、真理を説いてきた多くの本とその言葉から得た知識やインスピレーション、そして瞑想と祈りによつて頂いた恩恵と智慧を、本書を通じて少しでも多くの方にシェアできることを、心から望み、喜び、感謝しています。

「恋愛」はまさに私が今世に持ってきた学びのテーマです。本書ではこのテーマを通じて、「愛の度数を上げる」生き方、すなわち概念を超えて愛そのものに還るための、私なりの道標を記すことができます。たらと思っています。

初めての拙著であり、不慣れで見苦しい箇所もあるかと思いますが、かつこつけず、うそ偽りないよう、知ったかぶりや見栄を張らないよう、エゴは傍らにそっとおいて、愛そのものからお伝えできるように祈りながら書き進めたいと思いますので、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。